



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	イギリスの中央行政機関における長官職：1272年から1485年まで（上）
Author(s)	東出, 功
Citation	北海道大学人文科学論集, 18, 1-29
Issue Date	1981-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34357
Type	departmental bulletin paper
File Information	18_PL1-29.pdf



イギリスの中央行政機関における長官職

— 1272年から1485年まで（上） —

東 出 功

《はじめに》

筆者はかつて、「中世イギリスの中央行政機関における King's clerks」¹⁾という小論を書いた。これは中央行政の各部門の長官職について、長官就任以前の経歴を分析したものである。問題は、国王行政に対して聖職者がどの程度まで関与していたか、しかもとりわけ king's clerk²⁾（以下、KC と略記）と呼ばれる聖職者がどの程度まで関与していたか、ということであった。しかし紙面の制約があり、当時としては手もとの史料の制約もあって、きわめて不満足な論稿に終わらざるをえなかった。今回はこうした制約から離れて、長官職経験者全員をより広汎な視点から吟味しておきたい。

F. M. POWICKE & E. B. FRYDE (ed.), *Handbook of British Chronology*, 2nd ed., 1961（以下、*Handbook* と略記）は、English Officers of State として各種の官職保有者を列挙している。本稿はそのうち次の 4 種類を対象とする。

(1) Keepers of the Wardrobe（以下、KpW あるいは w と略記）——wardrobe (garderoba) とは、字義通りには衣装部屋あるいは納戸を意味する。後出の exchequer がいわば「王国」の財政をあつかうのに対して、wardrobe は「王室」の財政をあつかう。しかし両者の区分は、実

1) 堀米庸三編『西洋中世世界の展開』（東京大学出版会、昭 48）287—304 頁。

2) その概念については、これまで拙稿でしばしば述べている。上掲拙稿、288 頁。ほかに「封建制から官僚制へ——イギリス」（『歴史教育』13/6、昭 40）、68—69 頁。「“King's clerks”に関する二つの試論」（北海道大学『人文科学論集』9、昭 47）12—13 頁。「中世後期における国家と教会」（イギリス史研究会『イギリス史研究』29、昭 55）3 頁。要点を反復するならば、King's clerk とはラテン語で *clericus regis* と書かれ、その clerk とは書記であり聖職者でもある。国王書記聖職者あるいは国王聖職者書記とでも訳されよう。KC は、聖職者官僚である点で俗人官僚から区別され、国王から直接給与を受ける点でこれを受けない下僚から区別される（それ以外の属性については、必要に応じて以下の本論で述べられる）。cf. G. P. Cuttino, “King's Clerks and the Community of the Realm”, *SPECULUM*, XXIX, 1954, p. 396.

際には必ずしも明確でない。KpW とはこの wardrobe の長官である³⁾

(2) Chancellors (以下, Ch あるいは c と略記) および Keepers of the Great Seal (以下, KpGS と略記) —— chancellor (cancellarius) とは chancery (cancellarium) の長官である。great seal とは, 後出の privy seal がいわば「国王私印」であるのに対して, いわば「王国公印」である。chancellor はこの公印の管掌官でもあるが, 別に臨時代行者として KpGS が置かれることもある⁴⁾

(3) Keepers of the Privy Seal (以下, KpPS あるいは p と略記) —— privy seal は, Edward I の治世末年ごろには controller of the wardrobe (KpW の次官) がこれを管掌した。Edward II の治世にいたって, 専任の管掌官がおかれる。彼らは *secretarius regis* (king's secretary) と称せられることもある⁵⁾

(4) Treasurers (以下, t と略記) —— 前出の exchequer (財務府) の長官は treasurer of England (*thesaurarius Angliae*) と呼ばれる⁶⁾

Handbook には, 主要な官職としてほかに Chief Justiciars⁷⁾ の名が列挙されている。旧稿⁸⁾ではこれにも言及したが, この官職は Edward I 治世以降には及んでいないので, 本稿ではあつかわない。Stewards of the Household⁹⁾ は, 行政面では上記 4 長官ほどの影響力をもたなかったとおもわれるので, 本稿では論及しない。

なお本稿では, 1272 年の Edward I の即位から 1485 年の Richard III の敗死まで, 213 年間をあつかう。この間の長官職経験者の数を聖職者・俗人に分けて表示しておこう。() 内の数字は延べ人数である。

	聖 職 者	俗 人	合 計
KpW	39 (41)	23	62 (64)
Chancellor	42 (65)	9	51 (74)
KpPS	53 (57)	1	54 (58)
Treasurer	43 (56)	31 (40)	74 (96)
	177 (219)	64 (73)	241 (292)
	[132]	[59]	[191]

3) 「納戸部長官」cf. 城戸 毅『マグナ・カルタの世紀——中世イギリスの政治と国制, 1199-1307』(東京大学出版会, 昭 55) 88-89 頁。

4) 「尚書部長官」cf. 城戸, 上掲書, 63 頁他。なお chancellor は, 字義通りには an officer *ad cancellos* (at the bars) (e.g. of a court) (C. T. Onions, ed., *The Oxford Dictionary of English Etymology*, Oxford, 1966) とか, an officer……who stood near the screen of lattice-work or of cross-bars which fenced off the judgment-seat (W. W. Skeat, *An Etymological Dictionary of the English Language*, new ed., Oxford, 1968) と説明されている。裁判官席が格子で仕切られ, その格子のそばに立つ usher (廷吏) が原義であった。

5) *Handbook*, p. 89. ほかに城戸, 上掲書, 89, 168, 261 頁他。

6) 「財務府長官」cf. 城戸, 上掲書, 110 頁他。

7) 「イングランド行政長官」cf. 城戸, 上掲書, 63 頁他。

8) 「中世イギリスの中央行政機関における King's clerks」290 頁。

9) 「宮内府長官」cf. 城戸, 上掲書, 167 頁。

たとえば chancellor について聖職者 42 (65) となっているのは、同一人物が 2 回以上同じ職に任命される例もあるからで、実数では 42 名に過ぎない。また聖職者の実数合計は 177 名となっているが、この中には 2 種類以上の長官職を歴任している例もあるから、これも別な意味で延べ人数である。正味の実数とでもいうべきものは、[] 内の 132 名である。これに俗人の 59 名を加えて、全体としては 192 名の長官が 292 回にわたって長官一覧表に登場することになる。

俗人が KpW と treasurer とに多いこと、chancellor と treasurer とに同一人物の重任の事例が多いこと、treasurer の交替がもっとも多いことなど、この表から直ちにわかることもあるが、それらの諸点については後であらためて述べる。ここでとりあえず指摘しておきたいことは、この表からわかるように、この時期の長官職を問題にすることがほぼ 70% まで聖職者長官を問題にすることになる、という事実である。しかも本稿は、大半の紙面をこの 70% の聖職者長官にあてた。筆者の関心が主としてこれに向けられているからである。¹⁰⁾

なお、主要な文献・史料は、以下の省略表記で示した。

Dictionary of National Biography: DNB.

T. F. TOUT, *Chapters in the Administrative History of Mediaeval England*, Manchester, 1920-33, 6 vols.: Tout, III などと記す。

Calendar of Patent Rolls: CPR.

1

以下、132 名の聖職者長官について略歴を素描するが、はじめに 4 名についてやや詳細に述べておこう。第 1 例のばあい、人名の後に (kc?-w-p-B-t-c) とあるのは、kc 出身者であるらしいこと、KpW, KpPS を歴任した後で司教(bishop)に叙任され、その後にさらに treasurer, chancellor を歴任していることを示す。第 4 例のばあい、A とあるのは、大司教(archbishop)を示す。引用史料の中で kc 身分を示している部分は、斜体字に変えておいた。

[1] BURY, Richard: kc?-w-p-B-t-c

Kc?: (a) 30 Oct. 1323 “John de Denton and R. de B., *king's clerks*, are appointed to seize into the king's hands and cause to be safely kept all lands, goods and chattels late of the same John (de Gray, deceased) in Wales and the march of Wales until further order.” *Calendar of the Fine Rolls*, III, 242. (b) 2 Dec. 1327 “Grant to R. de B., *kc*, of the prebend in the collegiate church of Crediton (co. Devon).” *CPR.*, 1327-30, p. 191. (c) 29 Mar. 1330 “Pardon to R. de B., *kc*, for labours and expenses in the service of the king, as well before he assumed the

10) 俗人長官については、城戸 毅「中世末期イギリスにおける中央行政機関への俗人の進出について」(『史学雑誌』76/10, 昭 42) ですであつかわれている。

governance of the realm as afterwards, of all arrears due on his account for the time when he was chamberlain of Chester.” *Ibid.*, p. 505.

KpW: (cofferer 1327-28)¹⁾ 21 Aug. 1328.²⁾

KpPS: 24 Sept. 1329.

Bp: (dean of Wells)³⁾ provision⁴⁾ 14 Oct. 1333 Durham (d. 14 Apr. 1345).

Tr: c. 9 Mar. 1334.⁵⁾

Ch: 28 Sept. 1334.

Richard が kc 出身者であるらしいことを示すために、3 片の史料をあげておいた。まず(c)の史料は、Edward III が Chester 伯であったとき、Richard がその chamberlain として家政に関与していたことを示している⁶⁾。しかしここで kc と書かれているのは、この文書の発給の時点において、すなわち KpPS 在任中の Richard が kc であることを示しており、これだけでは最初の長官職 (KpW) に任命される以前から kc であったとは断定できない。(b) の史料は、时期的には Richard が cofferer に就任してからのもので、その報酬の一部を示すものかともおもわれる。同名の別人である可能性はかなり小さいといえよう。cofferer ともなれば、中央官界で知名度も高く、同名の別人であれば、その別人の方に別人であることを明示して混同をさける必要がある。そのような配慮がなされていないということは、逆にこの史料が cofferer としての Richard 自身に関するものと推定させる根拠でもあるが、安全を期して同定 (identification) をひかえ、疑問符をつけておく。(a) の史料には John de Denton とならんで kc としての Richard の名があがっている。Wales 辺境で「別命あるまで」 (until further order) とりあえず故 John de Gray の遺産を管理せよというものである。Richard が(c)の史料の通り Wales 辺境の Chester にいたからこそ、臨時にこの指名を受けたとも考えられる。王族に奉仕する高官が kc である例は、後述の通り少なくない。そこで(a)も Richard が kc 出身者であることを示す有力な状況証拠であるが、やはり安全を期して同定をひかえた。なお、(a)も別人、(b)も別人という可能性はさらに小さかるう。

1) () 内に書かれているのは、このばあいでは KpW に任命される前の官職を示している (以下、同様)。なお cofferer とは、coffer (金庫) の管理者を意味する。KpW の次官は controller であり、cofferer はこの controller に次ぐ地位。次官をこえて長官に任命されたことになる。

2) 日付は特に明示しないかぎり、以下すべて *Handbook* による。

3) () 内に書かれているのは、このばあいでは Durham 司教に叙任される以前の聖職を示している (以下、同様)。なお dean とは司教座聖堂参事会首席司祭。

4) 以下、prov. と略記。司教の人事には、(a) election (聖堂参事会員が選挙する)、(b) election-provision (選挙後に結果を追認しあるいは否認した上で教皇が直任する)、(c) provision (選挙を経ないで教皇が直任する)、(d) translation, re-election, re-provision, etc. (すでに司教であるものを教皇が他の司教座へ転任させたり、既経験者の再選挙・再直任など) などの方式がある。Richard のばあいは(c)の直任であり、その日付を示している。

5) Tout は “Appointed 3 Feb. 1334. Entered office 24 Feb. 1334—1 Aug. 1334” としている (VI. p. 22) cf. 3 Feb. 1334 “Appointment of R., bishop of Durham, to the office of the treasury of Exchequer, during pleasure,” *CPR.*, 1330-34, p. 511.

6) Tout, III, 25.

なお *DNB* や John Lord Campbell は、この Richard がまず学者として頭角をあらわし、王太子（後の Edward III）の家庭教師であったというが、Tout は確証がないとしてこれを否認している⁷⁾。聖職歴では dean of Wells を経て Durham 司教に叙任され、終身その地任にあった。Richard を最初にとりあげたのは、4 種類の長官職をすべて歴任しているのがこの 1 例のみであることによる。

[2] **NORTHBURGH, Roger** : kc-p-w-B-t

Kc: (a) 27 Oct. 1310 “R. de N., clerk, has letters to the abbot and convent of Shireburne in Dorset, to receive from them a pension that they are bound, by reason of the new creation of the abbot, to give to one of the king’s clerks.” *Calender of Close Rolls, 1307-13*, p. 337. (b) “The first mention of him as a royal clerk is on 27 Oct. 1310 (*Cal. Close Rolls, Edw. II, 1307-13*, p. 337).” *DNB*.

KpPS: 18 Sept. 1312.

KpW: 1 Feb. 1316.

Bp: (archdeacon⁸⁾ of Richmond, York) prov. 14 Dec. 1321 Coventry and Lichfield (d. 22 Nov. 1358).

Tr: 26 June 1340.

(a)の史料は、kc の 1 名に支給されるべき pension の受給資格を Roger に認めるという趣旨のものである。Roger が受給資格を認められているという事実から、彼は kc であったと考えられる。この pension が単なる年金か否か、あるいは貨幣形態の給与か否かは、この史料だけでは判明しない。ともあれこの史料は、Sherborne 修道院長の交替にあたって、国王がこれに承認する代償として、同修道院長ならびに修道団 (abbot and convent) が kc 1 名分の pension 支給義務を負わされたことを示している⁹⁾。kc は国王から直接給与を受ける点でこれを受けない下僚から区別されるが、国王はこの例のように、給与支給の義務をしかるべき教会・修道院に代行させることも可能であった。なおこの史料が問題の Roger 本人に関するものであると判定した

7) Campbell, *The Lives of the Lord Chancellors and Keepers of the Great Seal*, vol. 1 (1845), pp. 218 f. この家庭教師伝説の根源は、Tout によればほかならぬ Richard 自身であろうという。自分を偉大な聖職者として印象づけるべく、前歴を誇張したのではないかという。真の家庭教師は John Paynel で、Richard の後任として Chester の chamberlain になった人物である。知名度の低い John が *Philobiblon* (古田 暁訳『フィロビブロン——書物への愛』大阪フォーラム画廊出版部、昭 47) の著者として高名な Richard の背後にかくれ、あるいは混同されることは、ありえないことではないという。Tout, *op. cit.*, 25 f. n. 2.

8) 助祭長。1317 年 (29 May) 就任。cf. *CPR.*, 1313-17, p. 655.

9) abbot や prior の交替にあたって修道院がこの種の負担を課される例はほかにもある。2 例のみを追加しておこう。25 May 1320 “Peter de Pulford, clerk, has letters from the king to the prior and convent of St. Andrew’s Northampton to receive the pension due from them to one of the king’s clerks by reason of the new creation of the prior.” *C. Close R.*, 1318-23, p. 236. 12 Jan. 1329 “William de Elmeham, clerk, is sent to the abbot and convent of Abyndon to receive the pension due to one of the king’s clerks by reason of new creation of the abbot.” *C. Close R.*, 1327-30, p. 425.

のは、*DNB* に(b)のように書かれているからで、さしあたりほかの証拠はない。したがって *DNB* の同定自体に誤りがあれば、本稿の同定も根拠を失う。同定にあたって *DNB* に依存するのは不本意であるが、以下これに依存する例も少なくない。要するに本稿は、*DNB* や *Handbook* などにも依存した上で、最大限どこまで Kc の前歴を立証できるか、その限界を見きわめようというものである。

KpPS以前の職歴については *Handbook* に明記されていない。しかし、少なくとも前年から、“on the information of R. de N.”と明記された letters patent(開封勅許状)や letters close(密封勅許状)が多数にのぼっているので、国王の身邊の要職にあったことがわかる。

また *Handbook* の KpPS の名簿は Willam Melton(後出〔5〕)から始まり、Roger は2代目になっているが、William は controller of the wardrobe の資格で privy seal を管掌したのであって、独立の官制としての KpPS は Roger が初代である¹⁰⁾ Roger は正式に3種類の長官職を歴任するほか、1321年4月16日に病気の chancellor (John Salmon) に代わって KpGS の事務取扱4名中の1名に任命されている。しかしこれは、正規の KpGS とは見なされない。¹¹⁾

[3] EDENDON (Edington, etc.), William: kc-w-t-B-c

Kc: (a) 26 Jan. 1341 “…… to W. de Edynton, kc, whom the king has appointed receiver of the said subsidy on this side Trent at the Tower of London …” *CPR.*, 1340-43, p. 125. (b) “On 26 March 1341 he is mentioned as receiver of the subsidy of a ninth granted by parliament on this side Trent (RYMER, *Foedera*, ii, pt. ii, 1154, Record edition)” *DNB*.

KpW: 25 Nov. 1341.

Tr: 12 Apr. 1344.

Bp: (canon¹²⁾ of Salisbury) prov. 9 Dec. 1345 Winchester (d. 7 Oct. 1366).

Ch: 27 Nov. 1356.

まず(b)で指摘されているのは次の文言である。“Rex, dilecto Clerico suo, Willielmo de Edyndon, Receptor Subsidi Nonæ, nobis per Communitatem Regni nostri Angliæ concessæ, citra Trentam, Salutem.”¹³⁾である。ここでも William は clericus suus (his clerk — kc)と明示されている。*DNB* はこれを当の Willam に関する史料と同定し、Tout もそれを疑っていない。¹⁴⁾ Trent 河以南(此岸)の9分の1特別税徴収官(receptor subsidii nonæ …… citra Trentam)であることは(a)にも明記されており、(a)についても同定が可能になる。Tout

10) ‘first separate kp.’ *Handbook*, p. 90.

11) Tout, VI, 9.

12) 司教座聖堂参事会員。

13) 手もとの第3版縮小複製版(1967)では Tomi II, pars IV, 96.

14) Tout, III, 108 f. William はまた KpW 就任のほぼ6か月前(7月1日)にも“……, kc, receiver of the said ninth on this side the Trent……” (*CPR.*, 1340-43, p. 257)であった。別人とは考えがたい。

は William を Winchester 司教 Adam Orleton の personal clerk であったという。いわば bishop's clerk である。そして遅くとも 1335 年までに国王のもとでの勤務 (king's service) に入ったという¹⁵⁾

聖職歴では, Salisbury の聖堂参事会員を経て, 1345 年に Adam の死後 Winchester 司教に叙任されている。William もまた正規に 3 種類の長官職を歴任している。

[4] STAFFORD, John : p-t-B-c-A

KpPS : 25 Feb. 1421¹⁶⁾

Tr : 18 Dec. 1422

Bp : (dean of Wells) election¹⁷⁾ 14 Nov. × 19 Dec. 1424, prov. 18 Dec. 1424 Bath and Wells.

Ch : 26 Feb. 1432.

Abp : translation¹⁸⁾ prov. 13 May 1443 Canterbury (d. 25 May 1452).

この人物も 3 種類の長官職を歴任しているが, KpPS に任命される前に kc であったか否かについては確証がない。Lord Campbell によれば, John は Canterbury 大司教 Henry Chichele に引立てられて Henry V の好意に浴したことになる。その記述には事実誤認もあるが,¹⁹⁾ 大司教との関係は事実とおもわれる。あるいは archbishop's clerk であった可能性もあり, そ

15) Tout, III, 109. 28 Mar. 1335 "Ratification of the estate of W. de Edyndon, *kc*, as master of the hospital of St. Cross by Winchester……" (*CPR.*, 1334-38, p. 88). この master の職は Winchester 司教 Adam から与えられたものか。そして *kc* になって, あらためてその職を国王から追認されたということか。

16) *DNB* では "May 1421" となっている。また 1428 年 7 月 11 日以前に再任された可能性を示唆しているが, *Handbook* はそれにふれていない。

17) 以下, el. と略記。前注 4) 参照。

18) 以下, trs. と略記。前注 4) 参照。

19) Campbell, *op. cit.*, p. 343. "……Chichele, Archbishop of Canterbury, elevated him (John) to be (a) Dean of the Arches, and obtained for him (b) the deanery of St. Martin, and (c) a prebend in Lincoln Cathedral. He then became (d) a favourite of Henry V., who made him successively (e) Dean of Wells, (f) Prebendary of Sarum, (g) Keeper of the privy seal, and (h) Treasurer of England." (a)……(h) は筆者が便宜的に加筆したものであるが, then とか successively とかの表現からは, これらがこの順序で実現したように読める。しかし事実は以下の通りである。

(a) 1419 (*DNB*) dean of the Court of Arches. — 月・日不明。

(f) 9 Sep. 1419 (*DNB*) archdeacon of Salisbury (Sarum)

(g) 25 Feb. 1421 (*Handbook*), May 1421 (*DNB*) KpPS.

(d) 不明。しかし Henry V の死亡日は, 31 Aug. (1 Sep.) 1422 (*Handbook*, p. 37)

(b) 18 Dec. 1422 "Grant, by advice of the great council, to J. S., *kc*, kp. of his privy seal, of the deanery of the king's free chapel of St. Martin-le-Grand, London." *CPR.*, 1422-29, p. 15.

(h) 18 Dec. 1422 "Appointment, during pleasure, by advice of the great council, of J. S., *kc*, dean of the free chapel of St. Martin le Grand, London, to the office of treasurer of the Exchequer at the usual fee." *Ibid.*, p. 81.

(e) 9 Sep. 1423 (*DNB*), dean of Wells.

(c) 1 Sep. 1424 "Grant to J. S., *kc*, of the canonry and prebend…… in the cathedral church of St. Mary, Lincoln……" *CPR.*, 1422-29, p. 231.

(a) と (f) との前後関係は不明である。(b) と (h) とはまったく同日である。(e) と (h) とは, Henry V の力によるかのごとく書かれているが, いずれも同王の死亡後のことである。また (b) と (h) とは "by advice of the great council" と明記されていて, この人事が国王の発意によるものか否かも疑わしい。

れについては、John Kempe (後出 [33]) との関連であらためて述べる。KpPS になってからは、*treasurer* に任命される前に明らかに *kc* であった²⁰⁾

以上、[1] は 4 種類の長官職をすべて歴任しているものとして、[2] 以下の 3 名は 3 種類の長官職を経験しているものとして、いささか詳細に吟味した。3 種類以上を完全に経験し、しかも司教歴をもっているのはこの 4 名だけである。[1] の Richard については、最初の長官職(KpW) に任命される以前の *kc* 歴に関して、かなり有力な状況証拠があるにもかかわらず、安全のために疑問符を付しておいた。しかしこの Richard も、KpW に任命されてからは確実に *kc* になったとおもわれる²¹⁾ [4] の John については、むしろ *kc* ではなくて *archbishop's clerk* から KpPS に登用されたかと考えたが、KpPS になってからは明らかに *kc* である²²⁾ [2]・[3] の 2 名については、*DNB* を援用するかぎりにおいて *kc* の前歴が知られた。

2

次に、2 種類の長官職歴任者を問題にするが、本節ではそのうち司教歴をもつもの 30 名について、前節よりはいささか簡略に吟味しよう。

[5] MELTON, Wiliam : *kc-w-A-t-t*

Kc: (a) 2 Jan. 1305 “Grant to W. de M., *kc*, of the prebend of Crophull and Oxton, in the church of St. Mary, Suthwell……” *CPR.*, 1301-07, p. 307. (b) “…… he received the prebend of Oxton with Cropwell at Southwell……” *DNB*.

[KpPS: as controller of the wardrobe, 8 July 1307]

KpW: (controller 1307-14) 1 Dec. 1314.

Abp: (dean of St. Martin's-le-Grand, London) el. 21 Jan. 1316, prov. Sep. 1317 York (d. 5 Apr. 1340)

Tr: 3 July 1325; 1 Dec. 1330.

20) 6 Apr. 1422 “……the *kc* Master J. S., kp. of the privy seal……” *CPR.*, 1416-22, p. 443. 他方、疑問の史料もある。“On 15 April 1421……Masters J. S., clerk of the privy seal, Robert Gilbert, dean of the chapel……Richard (Fleming), bishop of Lincoln, caused his seal to be affixed in his inn at the Old Temple, London, on 27 May, 1421.” *Ibid.*, pp. 404 ff. この史料は、書かれている通り、1421 年 5 月 27 日付で Lincoln 司教の印が押されているものを 5 月 30 日付で開封勅許状簿に登録したものである。John が上記の通り同年 2 月 25 日付 (*Handbook*) で KpPS に任命されていたとすれば、2 か月後に “clerk of the privy seal” と書かれていることに疑問が残る。かりに 5 月就任(*DNB*)と考えれば、“clerk of the privy seal” から KpPS に昇任した、しかも月末に昇任したとの推定もなりたつ。そのばあい “clerk of the privy seal” とは *kc* 身分のものの職掌かも知れず、遅くとも KpPS に任命される直前には *kc* になっていた可能性もある。しかし本稿では、2 月 25 日以前にその確証がないので、*kc* の前歴については、とりあえず否定的に考えておく。

21) 20 Oct. 1328 “Presentation, of R. de B., *kc*, to the prebend held by William de Clif, deceased, in the king's free chapel of Hastyng, in the diocese of Chichester.” *CPR.*, 1327-30, p. 324. Tout はこれを当の Richard に関するものと同定している (III, 5 n. 2)。

22) 前注 20) 参照。

この人物は、*Handbook* では最初の KpPS であるかのごとく書かれているが、*Handbook* 自体が明記している通り、また前出 [2] Roger Northburgh の項で述べた通り、実は wardrobe の次官 (controller) の資格で事実上の KpPS であったに過ぎない。それゆえ、正式には 2 種類の長官職歴任者と見なした。また、臨時に great seal の管理に当たったこともある¹⁾

[6] AIRMYN, William: kc-p-(B)-B-t

Kc: 20 Apr. 1322 “Safe-conduct …… for Henry de Cawode, ‘poleter’, servant of W. de Ayremynne, kc, one of the keepers of the Great Seal, and keeping the household for the clerks of Chancery, whom the said W. is sending to purvey poultry for the said household.” *CPR.*, 1321-24, p. 105. Cf. Tout, VI, 10.

KpPS: c. 26 May 1324.

[Bp: (canon of York) el. 7 Jan., temporalities²⁾ 19 Feb. 1325 Carlisle. quashed 13 Feb. 1325]

Bp: prov. 19 July 1325 Norwich (d. 27 Mar. 1336)

Tr: 1 Apr. 1331.

この人物も、正式には 2 種類の長官職しか歴任していない。しかし上記の史料にある通り、1322 年に “one of the keepers of the Great Seal” であった。この時点で正規の chancellor は John Salmon であるが、John は病氣中であった。そのようなばあいには、複数の KpGS 事務取扱がおかれる。William は 1311 年からほぼ常連として、このような複数の代行者の中に名を留めている³⁾ さらに 1326 年 (30 Nov.) にも、chancellor (Robert Baldock, 後出 [28]) が下獄した後をうけて代行職に任命された⁴⁾

なお William は上記の通り、1325 年 1 月 7 日に Carlisle 司教に選挙され、17 日付で国王は York 大司教にあてて承認の勅許状を発給した⁵⁾ 2 月 19 日には同司教領の管財人 (guardian)

1) 9 May 1310 “……on Tuesday (12 May 1310)……the bishop of Worcester delivered the said seal (great seal) by the king’s order to Sir W. de M. and Sir Robert Bardelby, and Master John Fraunceis …… to do what pertains to the office of the said seal until the king shall otherwise ordain……” *C. Close R.*, 1307-13, p. 258. ここで Worcester 司教とは Walter Reynolds (後出 [8]) であり、同年 7 月 6 日付で chancellor に任命されるが、この時点では treasurer である。

2) 以下, temp. と略記。一般に高位聖職者は聖職者固有のいわば霊的機能 (spiritualities) とともに、世俗領主と基本的に共通の俗的機能 (temporalities) をも兼備している。spirit. とは、その機能のほかに、それに由来する収入 (聖務収入) をも意味し、原理的には教皇から与えられる。temp. とは要するに世俗領主と同様の領地・領民支配権であって、ほかにそれに由来する財産・収入をも意味し、国王からいわば知行に相当するものとして与えられる。それゆえ司教のばあい temp. を与えられて、直属封臣 (tenant-in-chief) に相当する地位に立つことになり、前任司教が死亡・転出・辞任などの理由で司教座を去れば、temp. は世俗知行と同様にひとまず国王 (封主) の手中に復帰し、しかるべき管財人に委ねられる。上記のばあい “temp. 19 Feb.” とは、この日に新司教にあらためて temp. が授与され、いわば「封主=封臣関係」が成立したことを意味する。

3) Tout, VI, 7-10.

4) *Handbook*, p. 84; Tout, VI, 10.

5) 17 Jan. 1325 “Signification to W. (William Greenfield) archbishop of York of the royal assent to the election of W. de Ayremynne, canon of York, to be bishop of Carlisle.” *CPR.*, 1324-27, p. 83.

にあてて temp. 引渡しの指命が出ている⁶⁾。2月26日付の史料でも彼は、“W. bishop elect and confirmed of Carlisle”と書かれている⁷⁾。“bishop-elect”とは、選挙されてから教皇による正式叙任までの期間の司教をさす。“confirmed”とは、所管の大司教が選挙結果について承認を与えていることを示す。しかしこの人事は、2月13日付で教皇から無効の宣告を受けていた(quashed)。教皇はむしろ William には Norwich の司教座を与える意向であって、7月19日付で直任の勅書を発給する。他方、Edward II は、前出の Robert Baldock を Norwich 司教座につける意向で、7月23日の選挙結果に対して、7月28日付で承認を与え、8月12日付で temp. の引渡しを指令する⁸⁾。しかし Robert は、結局のところ9月3日に辞任し、William は9月15日に、フランスで教皇使節によって正式に叙任(consecration)された⁹⁾。William への temp. 引渡しの時期については疑問が残る¹⁰⁾。

[7] MONE (Moone), Guy: kc-p-B-t

Kc: (a) 5 July 1397 “(Ratification of the estate of) Thomas Yokflete (kc) as prebendary of Longestowe in the cathedral church of St. Mary, Lincoln.” *CRP.*, 1396 — 99, p. 200. (b) 24 June 1397 “Grant, for life, to G. M., kp. of the privy seal, of 100 marks a year at the Exchequer, at the supplication of, and as granted to, Thomas Yokflete, (king’s) clerk ……” *Ibid.*, p. 167. (c) 12 Nov. 1394 “Ratification of the estate of the kc G. M. as prebendary of Longestowe in the cathedral church of St. Mary, Lincoln.” *CPR.*, 1291-96, p. 553.

6) 19 Feb. 1325 “Mandate to Robert de Barton, kc, guardian of the temporalities of the void bishopric of Carlisle, to deliver the same to W. de Ayremynne, canon of York, whose election as bishop has been confirmed by William archbishop of York, and who has done fealty to the king,” *Ibid.*, p. 92. この末尾で国王に対する忠誠誓約(fealty)に言及されている。新司教が前注4)で述べたように新「封臣」になるためには、世俗封臣と同様に忠誠誓約をすませる必要があった。

7) 26 Feb. 1325 “Protection with clause *volumus* for two years for W. bishop elect and confirmed of Carlisle, going beyond seas on the king’s service,” *Ibid.*, p. 99. この *volumus* (we will) とは、このような外国旅行者に対する保護証(protection)の書式で、William は国王から海外出張を命じられていたことがわかる。おそらくいまだに教皇の無効宣告を知っていない。

8) 28 July 1325 “Signification to W. (Walter Reynolds) archbishop of Canterbury, of the royal assent to the election of Master R. de Baldok (*sic*), archdeacon of Middlesex, to be bishop of Norwich.” *Ibid.*, p. 157. および 12 Aug. 1325 “Mandate to……guardians of the void bishopric of Norwich, to deliver the temporalities thereof to Master R. de Baldok, archdeacon of Middlesex, whose election as bishop has been confirmed by W. archbishop of Canterbury and who has done fealty to the king.” *Ibid.*, p. 159.

9) *DNB.* consecratio: 司教叙階式(祝聖式)。

10) 13 Dec. 1326 “Mandate to……guardians of the temporalities of the bishopric of Norwich, to deliver the same to W., late canon of London (*sic*), preferred to be bishop thereof by J. (Joannes XXII) the pope, whose preferment was on 9 November last (1325) accepted by the king by letters patent……and whose fealty the king has taken.” *Ibid.*, p. 342. これからわかることは、まずこの人事が教皇の発意によるものであること、Edward II も前年11月にはこれに同意していること、忠誠誓約がすんでいることなどである。それにしては、temp. の引渡しが遅れており、Edward II 治世末期の政争が影を落している。さらに *Handbook* によれば “temp. 6 Feb. 1327” (p. 243) とあり、これが正しければ Edward II の廃位(1月20日)以後に最終結着が持越されたことになる。

KpPS: (receiver of the chamber 1391-98) 16 Feb. 1396.

Bp: (canon of London etc.)¹¹⁾ consecration¹²⁾ 11 Nov. 1397 St. David's, Wales (d. 31 Aug. 1407).

Tr: 22 Jan. 1398; 25 Oct. 1402.

Tout はこの人物について Kent 出身であること, kc としての勤務歴が長いことをあげている。たしかに 1391 年から chamber (宮廷財務庁) で収納事務を担当していた¹³⁾ しかし彼について手もちの史料から kc 歴を立証するには, (a) の史料に出てくる Thomas を媒介させなくてはならない。Thomas は 1397 年 7 月 5 日に Longstowe (Stowe Longa) の聖職禄に関する追認を受けている。(b) の史料では, ほぼ 2 週間前 (6 月 24 日) に Thomas の懇請 (supplication) によって, Guy が exchequer から 100 marks の終身年金の受給資格を得ている¹⁴⁾ これは 3 月 29 日に, Thomas が暫定年金として与えられたものであった¹⁵⁾ ではなぜ Thomas は, 国王に懇請してまでこの受給資格を Guy に譲渡しているのか。それは, Guy から Longstowe の聖職禄を譲渡されることになったからではないか。(c) では, Longestowe は “the kc G. M.” の聖職禄とされている。(b) の KpPs としての Guy は, (c) の Guy つまり kc としての Guy と同一人物であることがわかる。kc としての Guy に言及した史料はほかにも数片あり, いずれも後日の KpPS に関するものとおもわれるが, 確実に同定しうるのはこの (c) だけである¹⁶⁾

11) canon and prebendary of Cadyngton Major in St. Paul's, London; canon and prebendary of Sydelesham in Chichester cathedral (CPR., 1396-99, p. 255). および canon and prebendary of Combe Tertia in the cathedral church of Wells (*Ibid.*, p. 268).

12) 以下, cons. と略記。前注 9) 参照。

13) 16 Feb. 1398 “..... Guy, bp. of St. Davids, late receiver of the moneys of the chamber from 13 June in the fourteenth year (1391), when he took up the office, untill February last (1398) when he was duely discharged thereof.” *Ibid.*, p. 317.

14) 28 Sep. 1397 “Grant, for life, to the kc G. M., who has surrendered his grant of 100 marks a year at the Exchequer dated 24 June last, of the manors of High Rothying, Little Canfeld and Ovysham, co. Essex.....” *Ibid.*, p. 215. 要するにこの年金もしかるべき所領を与えるまでの暫定年金であった。しかしやがて Guy は, この所領を失って再び同じ年金を受給する。15 Feb. 1398 “Grant, for life, to G. M., bp. of St. Davids, of 100 marks a year at the Exchequer, as from 24 June last.....” *Ibid.*, p. 288. 司教就任にあたって pluralism (複数の聖職禄をもつこと) を解消するためであろう。前出注 11) の各史料も, 司教就任にあたって返上した聖職(禄)を示したものである。

15) 29 Mar. 1397 “Grant to T. Y., late parson of Fennestanton in the diocese of Lincoln, which church he surrendered (so) that the dean and chapter of the king's free chapel within the palace of Westminster might appropriate it in mortmain, of 100 marks a year at the exchequer, until promoted to a church benefice or benefice with or without cure of souls, of the yearly value of 100 l., vicarages of parish churches only being excepted.” *Ibid.*, p. 107. Thomas は, Fennestanton の教会を放棄する代償としてこの年金の受給資格を得ている。これは, £100 相当のしかるべき聖職禄を与えられるまでの暫定年金であって, 上記 Longestowe の所領を与えられる際に, (b) の史料にある通りこれを Guy へ譲渡している。

16) Cf. CPR., 1391-96, pp. 327, 471, 634, 636, 637 (bis), 663. このうちの 1 片にふれておこう。1 Oct. 1393 “Grant to the kc G. M. of the treasurership of the cathedral church of St. Paul's, London.” p. 327. しかしこの授与はやがて問題になる。24 May 1394 “Revocation..... of letters patent by which the king lately granted the treasurership of the cathedral church of St. Paul, London, to G. M., on his false suggestion that it was void and in the king's gift after the said Guy has been summoned to show cause and has failed to appear in Chancery.” p. 412. すなわちこの授与が Guy の偽証によるということで chancery へ出頭を命じられ

なお, Guy のように長官経験者が外地の司教に叙任され, あるいは外地司教の経験者が長官に任命される例はほかに 6 例あって,¹⁷⁾ 全体で 7 例に過ぎない。司教経験者 80 名中の 7 名では, 決して多いとはいえない。しかも St. David's 以外は 2 例しかない。

[8] **REYNOLDS** (Reginaldi), **Walter** : kc-t-B-c-A

Kc: 16 June 1298 “Renewal of the presentation of W. Reginaldi, *kc*, to the church of Wymbledom.” *CPR.*, 1292-1301, p. 354. “…… Edward I presented him to the church of Wimbledon in Surrey ……” *DNB*.

Tr: (kp. of the wardrobe of Prince Edward 1301-07) 22 Aug. 1307.

Bp: (canon of St. Paul's, London)¹⁸⁾ el. 13 Nov. 1307, prov. 12 Feb. 1308 Worcester

Ch: 6 July 1310.

Abp: trs. prov. 1 Oct. 1313 (d. 16 Nov. 1327)

[9] **WYKEHAM**, **William** : kc-p-B-c-c

Kc: 23 May 1363 “Grant to the *kc* W. de W. of the archdeaconry of Lincoln ……” *CPR.*, 1361-64, p. 345. *Cf. infra*.

KpPS: (receiver of the chamber 1361, king's secretary 1361-63) 10 June 1363.

Bp: (dean of St. Martin's-le-Grand, archdeacon of Lincoln) el. 13-24 Oct. 1336, prov. 14 July 1367 Winchester (d. 27 Sept. 1404).

Ch: 10-17 Sept. 1367; 4 May 1389.

[10] **FORDHAM**, **John** : kc-p-B-t-B

Kc: (a) 13 Feb. 1375 “Grant to the *kc*, J. de F., of the prebend of Stoke *cum* Cudyington in the cathedral church of St. Mary, Lincoln ……” *CPR.*, 1374-77, p. 76. (b) 23 Oct. 1381 “…… J. de F., canon of Lincoln, whom the Pope has appointed bp. of Durham,” *CPR.*, 1381-85, p. 44.

る。前出注 11) で, Guy が司教就任まで同教会の canon であったということは, 実際にこの取消を免がれたということか。あるいは同教会に別に関係をもったということか。手もちの史料ではいずれとも判明しない。

17) 以下それを古い順に列挙する。

Bek, Thomas: w-B (*St. David's* 1280)

Thoresby, John (後出 [19]): p-B (*St. David's* 1347)-c-B (Worcester)-A (York)

Houghton, Adam: B (*St. David's* 1362)-c

Gilbert, John: B (*Bangor*, Wales 1372)-B (Hereford)-t-B (*St. David's*)-t

Arundel, Thomas: B (Ely 1373)-c-A (York)-c-A (Canterbury)-B (*St. Andrews*, Scot-
l and)-c-A (Canterbury)-c-c

Lyndwood, William: p-B (*St. David's* 1442)

18) 5 Apr. 1308 “Mandate…… to deliver the temporalities of the bishopric of Worcester to W. Reginaldi, late canon of St. Paul's, London, preferred by the Pope to that see.” *CPR.*, 1307-13, p. 63. 最後の “preferred by the Pope” とは, 教皇直任 (provision) のばあい用いられる表現である。このばあいは election-provision である。前出注 4) 参照。これまでのところでは, [4] John Stafford も el.-prov. であった。

KpPS: (kp. of the privy seal of Prince Richard 1376-77) 26 June 1377.

Bp: (dean of Wells, canon of Lincoln) prov. 9 Sept. 1381.

Tr: 17 Jan. 1386

Bp: trs. prov. 3 Apr. 1388 (d. 19 Nov. 1425)

[11] **BOOTH** (Bothe), **Lawrence**: kc-p-B-c-A

Kc: 10 Apr. 1452 "Grant to the *kc*, Laurence (*sic*) Bothe, chancellor of queen Margaret, of the archdeaconry of Stowe, in the diocese of Lincoln " *CPR.*, 1446-52, p. 527. Cf. *infra*.

KpPS: (chancellor of Queen Margaret 1452) 24 Sept. 1456.

Bp: (archdeacon of Stowe, dean of St. Paul's) prov. 22 Aug. 1457 Durham.

Ch: 27 July 1473.

Abp: trs. prov. 31 July 1476 (d. 12 Sept. 1464).

[8] の Walter は王太子 (後の Edward III) の KpW であり, [10] の John は王太子 (後の Richard II) の KpPS であり, [11] の Lawrence は王妃の chancellor であった。これら 3 例からしても, 王族がそれぞれに国王の行政庁の縮小模型ともいえるべき家政機関をもっていて, kc がそれらの機関にも配置されていたことがわかる。彼らはそこでの勤務実績が評価されて, 国王のもとで長官に登用されている。[1] の Richard Bury も王太子の家政に関与していた。

[12] **HOTHAM** (Hothum), **John**: kc-B-t-c-c

Kc: 20 June 1316 " royal assent to the election of J. de Hothum, *kc*, a canon of York, to be bp. of Ely." *CPR.*, 1313-17, p. 479.

Bp: (canon of the church of St. Peter's, York)¹⁹⁾ el. *a.* 20 June 1316 Ely (d. *a.* 14 Jan. 1337).

Tr: (chancellor of the exchequer, Dublin 1309)²⁰⁾ 27 May 1317.

Ch: 11 June 1318; 28 Jan. 1327.

[13] **STRATFORD** (Stretford), **John**: kc-B-t-c-A-c-c

Kc: (a) 28 June 1324 " the bishopric of Winchester to Master J. de S., archdeacon of Lincoln, preferred to be bp. by J. the Pope " *CPR.*, 1321-24, p. 432. (b) 30 Oct. 1322 " Master J. de Stretford, *kc*, archdeacon of Lincoln " *Ibid.*, p. 214.

19) 20 July 1316 "Mandate to keepers (guardians) of the bishopric of Ely during voidance, for the restitution of the temporalities thereof to J. de Hothum, late a canon of the church of St. Peter, York, whose election, as bp. of Ely, W. (Walter Reynolds) archbp. of Canterbury, after notification of royal assent, has confirmed." *Ibid.*, p. 517.

20) 14 May 1309 "Grant, during pleasure, to J. de Hothum, *kc*, of the office of Chancellor of the Exchequer, Dublin." *CPR.*, 1307-13, p. 114.

Bp: (archdeacon of Lincoln) prov. 20 June 1323.

Tr: (diplomatist) 14 Nov. 1326²¹⁾

Ch: 28 Nov. 1330.

Abp: trs. prov. 26 Nov. 1333 Canterbury (d. 23 Aug. 1348).

Ch: 6 June 1335; 28 Apr. 1340.

[14] **BURGHersh** (Borghersh, Burghasshe), **Henry**: kc-B-t-c-t

Kc: (a) 5 Aug. 1320 “…… H. de Burgherssh, a canon of York, whose preferment by Pope J[ohn XXII] to the bishopric of Lincoln the king has accepted.” *CPR.*, 1317-21, p. 494. (b) 6 Dec. 1318 “Grant to H. de Borghersh, *kc*, of the free chapel in the castle of Tikehill (York).” *Ibid.*, p. 244.

Bp: (canon of York) prov. 27 May 1320 (d. Dec. 1340).

Tr: 28 Mar. 1327.

Ch: 2 July 1328.

Tr: 1 Aug. 1334.

以上3名は、いずれも kc から司教になり、その後に長官に起用されている。

[15] **LANGTON** (Langeton), **Walter**: kc-w-t-B-t

Kc: (a) 8 Sept. 1290 “Licence…… for W. de Langeton, *kc*, to enclose and impark his wood of Assele and 12 acres of land adjoining thereto, within the motes of the forest.” *CPR.*, 1281-92, p. 388. (b) “…… licence to impark his wood at Ashley ……” *DNB*.

KpW: (cofferer 1287) 20 Nov. 1290.

Tr: 28 Sept. 1295.

Bp: (canon of Lichfield) el. 20 Feb. 1296 (d. 9 Nov. 1321).

Tr: 23 Jan. 1312.

Toutによれば、WalterはLeicestershire出身で早くからEdward Iに仕え、後にはThomas Gunneys (controller of the wardrobe, 1272-83)のpersonal clerkであったこともある²²⁾。Thomas自身がkcであったから²³⁾ Walterはいわばking's clerk's clerkであったことになる。

[16] **SANDALL** (Sandale), **John**: kc-t-c-B-t

21) As “a civilian and a diplomatist, and therefore conjectually a clerk of chancery.” Tout, II, 214f. Cf. 12 Feb. 1323 “Master J. de S., archdeacon of Lincoln, staying beyond seas on the king's service……” *CPR.*, 1321-24, p. 245. なお Tout は、John が正規の treasurer ではなく、その lieutenant であったとして、“Appointed 6 Nov. 1326. Acted until 28 Jan. 1327”と記している (VI. pp. 21, 407.)。本稿は *Handbook* によった。

22) Tout, II, 15. なお彼は、*DNB* のWalterの項を担当しているが、Walterをclerk of the chanceryとしたのは誤りであったという (*Ibid.*, p. 18 n. 2)

23) 28 Feb. 1282 “Acknowledgement of receipt, by the hands of Thomas de Gunneys, *kc*, of a loan of 605 l. from R. bp. of Bath and Wells.” *CPR.*, 1281-92, p. 12.

Kc: 20 Aug. 1307 “Appointment …… of J. de Sandale, *kc*, to the office of chancellor of the exchequer ……” *CPR.*, 1307-13, p. 6. Cf. *infra*.

Tr: (chancellor of the exchequer 1307) 6 July 1310.

Ch: 26 Sept. 1314.

Bp: (provost of Wells, canon of Lincoln and St. Paul's) el. a. 27 July 1316 Winchester (d. 2 Nov. 1319).

Tr: 16 Nov. 1318.

Tout は, John の official career が wardrobe から始まり, 間もなく exchequer へ配置換えされたといい, そこで chancellor of the exchequer 職に言及している。また “a clerk of the earl of Lincoln as well as of the king” であったともいう。Lincoln 伯とは Henry de Lacy である。earl's clerk でもあったということである²⁴⁾。なお, *Handbook* では, 1312 年 10 月 4 日に acting treasurer に任命されたことになっているが, 1308 年 5 月 6 日から 1310 年 7 月 6 日まで, すなわち最初に treasurer に任命される直前までもやはり treasurer の事務取扱であったとされている²⁵⁾。

[17] BINTWORTH (Bentworth, Bynteworth), **Richard**: kc-p-B-c

Kc: (a) 13 Dec. 1334 “Whereas on 25 July the king sent Master R. de Bynteworth, *his clerk*, to the Roman court ……” *C. Close R.*, 1333-37, p. 285. (b) “…… in 1334, and for the next three years, he was mainly employed as a *kc* in important missions to Scotland, France and the papal curia ……” Tout, V, 10.

KpPS: (diplomatist) 25 Mar. 1337.

Bp: (canon of St. Paul's) el. 4 May 1338 London (d. 8 Dec. 1339).

Ch: 6 July 1338.

上記(a)の史料は, Tout が同頁の脚注で示唆しているものである²⁶⁾。Richard は法学者 (doctor

24) Tout, II, 214 n. 1.

25) *Handbook*, p. 101; Tout, VI, 20.

26) (a)の史料には次の文言が続く。“……(the king) granted to him (Richard) that he should receive 13 s. 4 d. for every day……on this side of the sea, and 20 s. for every day beyond the sea, until his return to the king, and that his reasonable costs and expenses…… should be allowed to him, and the king caused 50 l. to be delivered to R. in the wardrobe upon such expenses, the king therefore orders the treasurer, barons, and chamberlains…… to deliver to him from the treasury, what they shall find to be due to him for such wages beyond the said 50 l.” 国内での日当と国外での日当とが明記され, そのほかに必要経費として wardrobe から 50 l. を支給するという。またそれ以上の出費があったばあい, 後日 treasurer 等が適当と判断すれば, exchequer からその追加分が支給されるという。この支給命令は, ほぼ 14 か月後 (4 Feb. 1336) に, ほぼ同じ文言で更新されている(*C. Close R.*, 1333-37, pp. 546 f.)。国内の日当は “one mark” と書かれているが, これはいうまでもなく 13 s. 4 d. をいいかえたものに過ぎない。Tout はこの給与額からして, Richard は “a man of high rank” であったという。なお次の史料については, 同定のための確証はないが, 念のためあげておこう。18 Oct. 1335 “Grant to Master R. de Bynteworth, *kc*, of the archdeaconry of Ely, in the king's gift by reason of the see of Ely,” *CPR.*, 1334-38, p. 176. この当時 Ely の司教は John Hotham (前出[12]) である。しかしこの認可は, 翌月に

of civil law) であり、その能力によって外交官に起用され、やがて2種類の長官職を歴任する。

[18] ZOUCHE (Zousche), William de la : kc-p-t-t-A.

Kc: (a) 2 Kal. Dec. (30 Nov.) 1335. "Mandate at queen Philippa's request, to give to her clerk Master W. la Zouche, kp. of the king's secret seal, the canonry of York notwithstanding that he has a canonry and prebend of Exeter " *Calendar of the Entries in the Papal Registers*, II, 524. (b) 4 Non. July (10 July) 1328. "To William la Zouche. Provision, at the request of the king, whose clerk he is, of a canonry of Exeter " *Ibid.*, p. 276.

KpPS: (controller of the wardrobe 1334-35) 20 Feb. 1335.

Tr: 24 Mar. 1337; 31 Dec. 1338.

Abp: (dean of York) el. 2 May 1340, prov. 26 June 1342 York (d. 19 July 1352).

(a)の William は queen's clerk になっているが、kp. of the king's secret seal すなわち KpPS であること、またこの時点で York の canon に任命されていることからして、²⁷⁾ 問題の Willam 自身である。(a)ではさらに、彼が Exeter の canon であることにも言及されており、これによって(a)・(b)の同定が可能になり、彼の kc 歴が判明する。Harringtonworth (co. Northants.) の Zouche 家出身と推定され、初代 Baron Zouche (やはり William) の息子と考えられている。²⁸⁾ wardrobe の次官に就任する前に、great wardrobe に勤務していた。²⁹⁾

取消された。26 Nov. 1335 "Revocation of the late grant to Master R. de Bynteworth, kc, of the archdeaconry of Ely, which was made by the king in the belief that the temporalities of the see were in his hands by the death of John, bp. of Ely, whereas the said John was then and is now alive; and ratification of the estate of Master John de Offord, kc, as archdeacon by collation of the bishop." *Ibid.*, p. 191. 取消の理由は、事実誤認が判明したことにあるという。Ely の archdeacon 職は、"by collation of the bishop" というから、司教から John Offord に与えられていたことがわかる。司教の死亡が伝えられたので、国王は Ely 司教座の temp. が次の司教へそれを授与するまで、いわば封主としての国王の手中に復帰したものと判断して、temp. の一部すなわち同 archdeacon 職を国王の裁量によって Richard へ与えた。しかし死亡とは誤報で、同司教の生存が判明した。そこで国王は Richard への授与を取消して、あらためて Offord の権利を再確認したということである。いいかえると、司教がその推挙権によってある聖職を授与したばあい、その司教が死亡すれば、前司教による授与そのものが自動的に失効するものと考えられていたことになる。当時の法慣習の一端を示すものとして、同定不可能の史料ではあるが、特に引用しておいた。

27) 後に dean of York.

28) Tout, III, 83; *DNB*.

29) (a) 26 Jan. 1329 "To Thomas de Ussefflete, late kp. of the great wardrobe. Order to deliver by indenture to Master W. la Zousche, kc, whom the king has appointed clerk and purveyor of the said wardrobe during pleasure, all the king's things and every things touching such office that are in Thomas's custody." *C. Close R.*, 1327-30, p. 437. (b) 15 July 1334 "Appointmeut of Edmund de la Beche, kc, as kp. of the great wardrobe, during pleasure. Mandate in pursuance to W. la Z., late clerk of the said wardrobe." *CPR.*, 1330-34, p. 569. (c) 21 Jan. 1331 ".....W. la Zousche, kc, kp. of the wardrobe....." *Ibid.*, pp. 52 f. これら3片の史料のうち、まず(a)では、kp. of the great wardrobe としての Thomas (de Ousefflete) が、clerk and purveyor of the said (great) wardrobe としての William に事務一切を引継ぐことになっている。(b)では、clerk of the great wardrobe としての William が kp. of the great wardrobe としての Edmund への事務引継ぎが命じられている。また(c)のように William をあたかも KpW であるかの如くに書いている史料もあるが、この時点での KpW は Thomas Garton であって、William

William は, York 大司教に選挙されてから 2 年後にあらためて教皇から直任された。この人事の結着が遅れたのは, 国王が William Kilsby (Kildesby) (当時 KpPS) を同大司教座に推挙していたことによる。結着までの経過については, Tout が *DNB* に書いている。教皇 Benedictus XII は, York 参事会の意向を尊重して de la Zouche を選ぶか, Edward III の意向に沿って Kildesby を選ぶか迷った末に死亡し, Clemens V にいたって結着した。

[19] OFFORD (Ufford), John: kc-p-c-A

Kc: (a) 12 Jan. 1339 “Appointment of Master J. de O., *kc*, archdeacon of Ely professor of laws, as the king’s proctor at the court of Rome.” *CPR.*, 1338–40, p. 197. (b) “Master J. O., was a prominent *kc*, a diplomatist, an administrator, and doctor of laws …… had been archdeacon of Ely and was now dean of Lincoln.” Tout, III, 160.

KpPS: (*supra*) 4 June 1342.

Ch: 26 Oct. 1345.

[Abp: (dean of Lincoln) prov. 24 Sept., temp. 14 Dec. 1348 Canterbury (d. 20 May 1349)]

この人物は, 前出 [17] Richard Bintworth に関する史料にも登場する。John の大司教人事も別な意味で円滑に進まなかった。³⁰⁾そして最後に祝聖を待たずに archbishop-elect and

は正しくは *kp. of the great wardrobe* であった。Tout はこの *keeper* と *clerk* との間に特に差異を認めていない (IV, 381 n. 5)。なお *great wardrobe* について, Tout は特に 1 章をあてている。「*great wardrobe* が単なる *wardrobe* よりも重要であると考えるのは無理もないが, 事実は逆である。*great wardrobe* と呼ばれたのは, 所管の物品の量が大きいためであって, 重要度が大きいからではない。要するに “*great*” とは *size* をさすのであって役職の *dignity* のことではなかった」(pp. 349 f.)。Tout はまたこの “*great*” という形容詞が学者にすら誤解を与えたという (p. 350 n. 1)。*great wardrobe* とは, もともと宮廷の *storehouse* であって, 衣服・食品・宝石・布地・甲冑・武器・幕舎・旗・馬具などのほか, 一時は硫黄・硝石など火薬原料の調達・保管にもあたっている (p. 352)。こうした業務は *wardrobe* や *chamber* の本来業務であったが, *great wardrobe* がこれを担当するに及んで, 旧来の *wardrobe* は宮廷の書記部局・行政部局の性格を強め, また *great wardrobe* の業務が多様化するにつれて, さらに甲冑や武器等のために *privy wardrobe of the Tower* が分化する (p. 353)。

- 30) 27 Nov. 1348 “Whereas the king’s hurried passage to Calais did not permit him (king) to make restitution, as he should have done, of the temporalities of the archbishopric of Canterbury …… to J. de O., dean of Lincoln whom the pope has provided to the church of Canterbury and appointed to be archbishop, or to take the fealty due to him before the restitution; he has committed to the said archbishop elect the custody of the temporalities ……” *CPR.*, 1348–50, p. 212. 要するに, 国王が Calais へ急行するので John の忠誠誓約を受けられないこと, 従って temp. の正式授与が遅れるので仮授与がなされるということである。14 Dec. 1348 “Although on 27 Nov. last the king received at Sandwich as he was starting hastily for Calais of urgent necessity a bull of the pope appointing Master J. de O., dean of Lincoln, to be archbishop, he was unable at that time to take the fealty of the same John and make full and due restitution of the temporalities as the latter (J.) was then at London exercising the office of chancellor, …… having now returned he has taken the fealty and made restitution of the temporalities of the archbishop elect ……” *Ibid.*, p. 219. 教皇勅書が 11 月 27 日に Sandwich で国王の手に渡っていること, Calais 急行の直前であったこと, John が chancellor として London に留まっていた忠誠誓約が不可能であったこと, 国王が Calais から戻って John から忠誠誓約を受け, temp. の仮授与を正式授与に改めたことが記されている。

confirmed のままで直任の翌年に疫病で死亡する。

[20] THORESBY (Tourresby), John : kc-p-B-c-B-A.

Kc: 3 June 1345 “Whereas Master J. de T., *kc*, keeper of the rolls of the chancery, is causing divers victuals for the sustenance of him and his household dwelling on the king's service in London to be brought by his men and his servants from his church of Oundle at divers times, the king has taken the victuals and men and servants into his special protection for one year.” *CPR.*, 1343-45, p. 480. cf. *infra*.

KpPS: (kp. of the rolls of chancery 1338-45) 3 July 1315.

Bp: (dean of Lichfield) cons. 23 Sept. 1347 St. David's.

Ch: 16 June 1349.

Bp: trs. prov. 4 Sept. 1349 Worcester.

Abp: trs. prov. 17 Oct. 1352 York.

Handbook は、この John が KpPS に任命される前に kp. of the rolls of chancery であったという (p. 91)。上の史料は、これを手がかりとして、当の John に関するものと同定された。またこの史料は、中央官僚が遠隔地に聖職禄をもつばあい、そこからの収益がどのように中央へもたらされるか、その 1 例を示している。Oundle は London の北北西約 100 km 強の位置にある。ここから使用人によって London まで食糧が輸送され、John とその世帯構成員の生計に充当されている。この史料は、輸送中の食糧と使用人に関する安全確保を指示したことの記録である。また彼については、kc に対する給与のあり方を示す記録も残っている³¹⁾。

31) 26 Sept. 1336 “Grant to Master J. de T., *kc*, for his service to the king in the Chancery and also in his office of notary and because his stay in the Chancery for the said office of notary and other business of the king is very convenient for the latter, of 40 marks yearly out of the issues of the Hanaper until he be provided by the king with a benefice of greater value than the said sum and the benefices which he holds already.” *CPR.*, 1334-38, p. 329. この史料からまず、chancery における John の任務に公証人 (notary) としての任務が含まれており、国王がその実績を評価して 40 marks の年俸を支給したことがわかる。hanaper とは書類を収納する簞であるが、issues of the hanaper とは great seal を付して発給する文書の手数料収入であって、その一部が John の年俸に充当されている。しかも年俸のほかにすでに聖職禄も与えられていて、将来この両者の総計を上まわる聖職禄が与えられれば、この 40 marks の年俸は停止されるという。この年俸は、2年後に 20 marks の加算があつて、60 marks すなわち 40 l. に変わった。30 Apr. 1338 “Order to pay to Master J. de T., 20 marks for Easter term last, in accordance with the king's grant to him of 40 marks yearly from the issues of the hanaper…… in consideration of his service as notary in chancery, the king wishing to support his expenses more easily.” *C. Close R.*, 1337-39, p. 363. 加算の理由が John の任務を考慮して、その出費に対する援助であるとされている。この 20 marks が加算分であることは、“in accordance with……” というだけでは判然としないが、さらに2年後の史料では“beyond”とあり“40 l.”とあるので加算であることがわかる。20 Dec. 1340 “…… the king lately granted to Master J. de K., *kc*, 40 marks yearly, and afterwards 20 marks yearly beyond the said sum, by the hands of the clerk of the hanaper … and on a late voidance of a small prebend in the collegiate church of Southwell he (king) has collated such prebend to him (J.) for the increase of his estate. It was not, however, his intention that such collation should prevent the said Master J. from receiving

[21] BUCKINGHAM (Bokyngham), John: kc-w-p-B

Kc: (a) 23 June 1363 “…… bishopric of Lincoln to J. de Bukyngham (*sic*), late archdeacon of Northampton, whom the pope has appointed to be bishop of that place……” *CPR*, 1361-64, p. 355. (b) 20 May 1351 “…… the king’s collation of the archdeaconry of Northampton, in the church of St. Mary, Lincoln, to J. de Bukyngham, *kc*.” *CPR*, 1350-54, p. 81.

KpW: (controller 1352-53) 23 Feb. 1353.

KpPS: 1 July 1360.

Bp: (dean of Lichfield) el. *a.* 20 Oct. 1362, prov. 5 Apr. 1363 Lincoln (resigned Mar. × July 1398, d. 10 Mar. 1399)

この人物は、Toutによれば Warwick 伯 Thomas Beauchamp から指名されて 1347 年に chamberlain of the exchequer of receipt になり、国王への奉仕を始めたという³²⁾とすれば earl’s clerk の出身か。controller は 1352 年 1 月 5 日から 1353 年 2 月 23 日までであるといい、また 1350 年 2 月 14 日から 1353 年 2 月 23 日まで kp. of the great wardrobe でもあったというから、双方を兼任した期間もあることになる³³⁾KpW を辞任してから exchequer に復帰し baron of exchequer となり、またそのままで、Edward III 不在中の摂政 Thomas of Woodstock の KpPS に任命されたこともある³⁴⁾国王の KpPS は John Winwick で、国王に同行して France へ出張していた。Tout および *DNB* によれば、John は Ely の修道士の選挙によって 1361 年に同司教に選出されたが、教皇 Innocentius VI から学識を疑われて否認されたという³⁵⁾しかし翌年

the said 40 l. yearly which he is still to have.” *CPR*, 1340-43, p. 71. 先の史料の “from the issues of the hanappr” が “by the hands of the clerk of the hanaper” といいかえられているが、趣旨は同じであろう。Southwell (co. Notts.) の小さな聖職禄が空席になり、これを John に与えたが、60 marks を引続き支給するという。さらに 2 年を経過して、20 marks だけ減額され最初の 40 marks に戻る。24 Sept. 1342 “…… notwithstanding that he (K.) has since collated him (J.) to a small and lean prebend in the church of St. Mary, Lincoln, and subsequently presented him to the church of Sibbesdon in the diocese of Lincoln, it is his will that the said J. shall continue to receive the 40 marks, as he used to do before he held the prebend and church, until he shew his will herein otherwise.” *Ibid.*, pp. 530 f. 先の Southwell 教会とは、church of St. Mary (at Southwell) である。Lincoln 司教区に含まれる。減額の理由は新たに Sibbesdon 教会に推挙されたからか。これら一連の史料は、Tout によっても簡単に言及されており、当の John 本人に関するものと考えられている (III, 86, nn.)。いずれにせよ John のばあいには、最初に 40 marks を支給された時点ですでに複数の benefice を保有しており、それと並行して現金の年俸を受けた。しかも 4 片の史料で一貫しているのは、現金の年俸がやがてしかるべき聖職禄に変わるべきものとされていることである。なお John は 20 marks 加算の翌年に archdeacon of London に任命されている。21 Mar. 1339 “Grant to Master J. de T., *kc*, of the archdeaconry of London……Grant to him of the prebend of Eldelond in the church of London.” *CPR*, 1338-40, p. 379. cf. Tout, *op. cit.*, loc. cit.

32) Tout, III, 218.

33) Tout, VI, 29, 36.

34) 1 Mar. 1360 “…… J. de Bukyngham, kp. of the privy seal of the king’s son Thomas, guardian (regent) of England……” *CPR*, 1358-61, p. 340.

35) *Handbook* は、bishop-elect のままで終わったばあいについてもその事実を記載しているが、John が Ely 司教に選ばれた事実にはふれていない。またそれは、*CPR* をはじめ手もとの史料にも記載されていない。

あらためて Lincoln 司教に選出され、国王からの要請もあって、教皇 Urbanus V は John を同司教に直任した。35 年以上にわたって同司教座にあったが、晩年には Richard II の不興を買い、Lichfield へ左遷されることになって、これに同意せず辞任した。³⁶⁾

[22] **BRANTINGHAM, Thomas**: kc-w-t-B-t-t

Kc: 12 Nov. 1362 “…… the *kc* T. de Brantyngham, treasurer of Calais ……” *CPR.*, 1361-64, p. 290. Cf. *infra*.

KpW: (treasurer of Calais 1361-68) 13 Feb. 1368.

Tr: 27 June 1369.

Bp: (canon of St. Paul's and Hereford) prov. 5 Mar. 1370 Exeter (d. 23 Dec. 1394).

Tr: 19 July 1377; 4 May 1389.

[23] **WALTHAM** (Waltham), **John**: kc-p-B-t

Kc: (a) 13 Sept. 1388 “…… to John, bishop elect of Salisbury, late archdeacon of Richmond in the church of York.” *CPR.*, 1385-89, p. 504. (b) 28 Mar. 1385 “…… the king's clerks, J. de W., archdeacon of Richmond, kp. of the rolls of Chancery, Master John Barnet ……” *CPR.*, 1381-85, p. 596.

KpPS: (kp. of the rolls of chancery 1381-86) 24 Oct. 1386.

Bp: (archdeacon of Richmond) prov. 3 Apr. 1388 Salisbury (d. 17 Sept. 1395).

Tr: 2 May 1391

Handbook は“kp. of the rolls of chancery 1386”としか示していないが、この職に任命されるのは 1381 年である。³⁷⁾ また John はこの職責において KpGS の事務取扱に任命されたことも

Avignon の教皇が国王から推挙された司教候補者に難色を示す例はほかにもあった。Robert Streton は 1358 年 12 月に Coventry and Lichfield 司教に選挙されながら、教皇が同意せず、1360 年 4 月になって provision を、9 月になって consecration を受けた。William Wykeham (前出 [9]) も 1366 年 10 月に Winchester 司教に選ばれながら、1367 年 7 月になって provision を、10 月になって consecration を受けた。John を含めてこれら 3 名は、いずれも 'literature' (Latin 語の能力か) を疑問視された。要するに 'illiteracy' の疑惑を受けたということである。しかし教皇も反対の姿勢を貫徹できず、結局は正式発令を遅らせたに留まる。

36) *DNB* によれば、Richard II は富裕な Lincoln 司教座を甥 Henry Beaufort に与えることによって Lancaster 家の支持をえようとした。そのため 1397 年に John を左遷しようとした。教皇は England 国王の助力を受けるべく、これに同意して転任を発令するが、John は辞任をもってこれに答える。なお John の死亡日は *DNB* では 1398 年 3 月 10 日となっているが、この時点ではまだ生存していると考えられる。19 July 1398 “Mandate to the escheator in the county of Lincoln to deliver the temporalities in his bailiwick of the bishopric of Lincoln to Henry Beauford (*sic*), late dean of Wells, provided by the Pope to the bishopric of Lincoln, in the room of John, translated to Coventry and Lichfield.” *CPR.*, 1396-99, p. 383. 死亡していれば “John deceased” とでも書かれよう。John の去就には関心がもたれていたであろう。3 月にしかも Canterbury で死亡したとすれば、その事実を 7 月になっても確認できていないということは考えがたい。*Handbook* の通り、翌年に死亡したと考えるべきか。Tout は “bishop of Lincoln, 1363-97; d. 1398” としているが (IV, 381 n. 4), これは *DNB* に依拠したものであろう。John に関する *DNB* の記事は、Tout によれば聖職歴に関する限りすぐれているという (III, 218. n. 1)。司教在位期間を 1397 年までとしていることにも疑問が残る (*DNB.*, under Bokyngham.)。

37) 8 Sept. 1381 “Appointment, during good behaviour, of J. de W., *kc*, as kp. of the rolls of

ある³⁸⁾

[24] STAFFORD, Edmund: kc-p-B-c-c

Kc: (a) 9 Apr. 1392 "Ratification of the estate of Master E. de S. as dean of St. Peter's, York, prebendary of Bychill *cum* Knaresburgh therein …… " *CPR.*, 1391-96, p. 44. (b) 14 Feb. 1388 "Grant to the *kc*, Master E. de S., of the prebend of Bichill with Knaresburgh in St. Peter's, York …… " *CPR.*, 1385-89, p. 401. cf. *infra*.

KpPS: 4 May 1389.

Bp: (dean of York) prov. 15 Jan. 1395 Exeter (d. 3 Sept. 1419).

Ch: 15 Nov. 1396; 9 Mar. 1401.

(b)の史料には特に dean とは記されていないが、この Edmund が(a)の Edmund と同一人であることは否定しえない。後の司教 Edmund が dean of York であったことは、*Handbook* のみならず、*DNB* も Tout も認めている³⁹⁾ KpPS に任命される以前の官職歴は、手もとの史料では判然としない。⁴⁰⁾ *DNB* も Tout も特にそれには言及しておらず、わずかに有力家門の出身であることを述べているに過ぎない⁴¹⁾

[25] LANGLEY (Longley), Thomas: kc-p-c-A-B-Cd-c-c

Kc: (a) 8 Aug. 1405 "Notification of the royal assent to the election by the chapter of the cathedral and metropolitan church of York of the *kc* T. de Longley, dean of the church, as archbp. …… " *CPR.*, 1405-08, p. 48. (b) 1 July 1401 "Grant to the *kc* T. Longeley (*sic*) of the deanery in the cathedral church of York " *CPR.*, 1399-1401, p. 506.

KpPS: (secretary 1399) 3 Nov. 1401.

Ch: 2 Mar. 1405.

[Abp: (dean of York) el. *a.* 8 Aug. 1405 York quashed *a.* 14 May 1406.]

Bp: prov. 14 May 1406 Durham (d. 20 Nov. 1437).

Chancery." *CPR.*, 1381-85, p. 41.

38) Tout, VI, 16, 17.

39) "in 1385 made a dean of York" Tout, III, 462.

40) 3 June 1389 "Order from 4 May last to this date, and henceforward so long as he shall stand in office, to make such payments and allowances for every day to Master E. de S. the *kc*, who on that day at the king's command took upon him the keeping of the privy seal, as used to be made to other keepers thereof and of the late king's privy seal, until order shall be taken for his continual abode in the king's household." *C. Close, R.*, 1385-89, p. 591. 彼の官職に関する最初の記録ともいうべきもので、ほかならぬ KpPS に任命されたことによって、KpPS として慣例の日当が支給されることを示している。またこの日当は国王の household への常住勤務 (continual abode) が命じられるまでのものと限定されている。

41) 父は Sir Richard de Stafford (Baron Stafford of Clifton), 初代 Stafford 伯 Ralph は伯父にあたる (Tout, *op. cit.*, loc. cit.)

Cd: 6 June 1411.

Ch: 23 July 1417; 16 Nov. 1422.

DNBによれば, Thomasは若いころからLancaster公John of Gauntに仕えており, その子Henry IVの即位によって昇進の道が開けたという。いわばduke's clerk出身といえよう⁴²⁾(a)の史料でもkcであるが, これはすでにKpPSと最初のchancellorとを経験してからのものである。(b)はKpPS昇任の4か月前のもので, (a)・(b)はdean of Yorkをいわば媒介項として同定される。York大司教に選挙されたが, 教皇Innocentius VIIに否認される。しかし空席のDurham司教座に直任された。1406年8月8日にSt. Paul's教会(London)でCanterbury大司教Thomas Arundelから祝聖される。Durham司教座はYork大司教の所管であったが, 依然として空席であったことによる。教皇がJohannes XXIIIに変わり, 新教皇はEnglandの支援を求めて, 1411年6月6日にThomasをcardinal(枢機卿)に任命した(Cdはそのことを示す)。

[26] BUBWITH (Bubbewyth), Nicholas: kc-p-B-t-B-B

Kc: (a) 4 Apr. 1408 “…… in favour of N., bp. of Bath and Wells, the king's treasurer …… in consideration of the services of the said Nicholas, as king's secretary, kp. of the rolls of the Chancery, kp. of the privy seal and treasurer ……” *C. Charter R.*, V, 436. (b) 24 Sept. 1402 “Appointment, during good behaviour, of the kc N. Bubbewyth as keeper of the rolls of Chancery, with all things belonging to the office, receiving the accustomed fees and profits.” *CPR.*, 1401-05, p. 120.

KpPS: (kp. of the rolls of chancery 1402-05) 2 Mar. 1405.

Bp: (archdeacon of Dorset) prov. 14 May 1406 London.

Tr: 15 Apr. 1407.

Bp: trs. prov. 22 June 1407 Salisbury.

Bp: trs. prov. 7 Oct. 1407 Bath and Wells (d. 27 Oct. 1424).

(a)のように経歴が1片の史料に列挙されていれば, (b)のような別な史料との同定が容易になる。しかし(a)のような史料は, ほぼ例外といってよく, そのことが同定を困難にする。なお(b)は, この種の官僚に対する給与の一端をうかがわせるが, feesとprofitsとがどのように区別されているかは, この史料だけでは不明である。またこの人物については, 前の2つの司教座の在任期間が異例に短い点で注目される。Londonでは, 1406年9月27日にtemp.を受けてから9か月で, Salisburyでは1407年8月14日にこれを受けてから2か月未満で早くも転出させられ

42) 7 Nov. 1399 “Grant to Ralph …… Thomas …… and T. de Longeley, clerk, executors of the will of king's father John (of Gaunt), late duke of Lancaster, deceased ……” *CPR.*, 1399-1401. p. 175. 故Lancaster公の遺言執行者の中にThomasの名が見える。DNBがいう通り, Thomasが同公のもとに仕えていたとすれば, この史料は当人のものであろう。

ている。

[27] **STILLINGTON** (Stillyngton), **Robert**: kc-p-p-B-c-c

Kc: (a) 17 Mar. 1466 “…… R. Stillyngton, bp. of Bath and Wells, dean of the king’s free chapel of St. Martin le Grand, London, and kp. of the privy seal ……” *CPR.*, 1461–67, p. 512. (b) 28 Nov. 1458 “Ratification of the estate of the *kc*, Master R. Stylyngton, as dean of the free chapel of St. Martin le Grand, London, for life.” *CPR.*, 1452–61, p. 470.

KpPS: (doctor of laws, king’s commissioner) 28 July 1460; 1 Nov. 1461.

Bp: (archdeacon of Wells) prov. 30 Oct. 1465 Bath and Wells (d. *a.* 15 May 1491).

Ch: 20 June 1467; 11 Apr. 1471 (resumed office)

KpPS に任命される前の官職名はさほど明白でなく、*Handbook* にも明記されていない。しかし上記の通り、彼は法学博士で、折りにふれて国王から委嘱を受けている。⁴³⁾

[28] **CHARLETON** (Cherleton), **Thomas**: kc?-p-B-t

Kc?: 17 Sept. 1307 “Grant to Master T. de Cherleton, *kc*, upon the resignation of R. de Torbelville, of the prebend of Canon Walton in the free chapel of Bruge.” *CPR.*, 1307–13, p. 8.

KpPS: 7 July 1316.

Bp: (archdeacon of Northumberland) prov. 25 Sept. Hereford (d. 11 Jan. 1344).

43) (c) 3 July 1456 “Grant to the *kc* and servant, R. Stillyngton, doctor of laws, of the canonry and prebend in the same chapel (free chapel of St. Stephen within Westminster palace) which John Lucas had of late……” *CPR.*, 1452–1461, p. 287. この史料は次の史料によって同定される。(d) 10 July 1461 “Ratification for life of the estate of Master R. Stillyngton, *kc*, as dean of the king’s free chapel of St. Martin le Grand, London, archdeacon of Colchester in the cathedral of London and of Tauntone in the cathedral of Wells, prebendary of Wetewang in the cathedral of York, Marther in the cathedral of St. Davids and the prebend which John Lucas lately had in the king’s free chapel of St. Stephen within his palace of Westminster, and parson of the church of Ayssebury, in the diocese of Salisbury.” *CPR.*, 1461–67, p. 17. この史料もまた Robert の財産目録ともいうべき一面をもっている。しかも(c)が(d)によって同定可能であるとすれば、(c)からさらに次の史料の同定も可能になる。(e) 29 Mar. 1458 “Commission of oyer and terminer to Master Thomas Kirkeby, kp. of the rolls of Chancery, Master R. Stylyngton, Master Richard Wetton and Master John Derby, doctors of laws, and ……” *CPR.*, 1452–61, p. 439. (f) “Commission to John, earl of Shrewsbury, Thomas, lord Scales, knight, Master Andrew Huls (Holes), kp. of the privy seal, Richard Haryngton, knight, and Masters R. Stillyngton and John Derby, doctors of laws……” *CPR.*, 1446–52, p. 537. (g) 12 Dec. 1450 “Commission of oyer and terminer to Master Andrew Huls, clerk, kp. of the privy seal, Master R. Stillyngton, clerk, Master John Derby, clerk……” *Ibid.*, p. 434. これら(e)・(f)・(g) 3片の史料には、いずれも同役として John Derby の名があがっている。それぞれの委員会に首席ではないが法律専門家として参画したとおもわれる。しかもこの John の方は、下記の通り、(c)の文書の発給の5日前に、同じ St. Stephen の聖職禄の一部を受けている。28 June 1456 “Grant to Master John Derby, doctor of laws…… of the prebend in the free chapel of St. Stephen within Westminster palace which Masteve John Kirkeby held of late……” *CPR.*, 1452–61, p. 287. 問題の Robert とこの John とがこれほどまでに並行して史料に出てくるということからして、これらはすべて1人の Robert であり1人の John であると考えられよう。

Tr: 2 July 1328.

1316年にKpPSに登用されるほどの人物が、1307年にkcであるということは、可能性としては大いにありうる。*DNB*によれば、彼の父RobertはCharlton (co. Salop) 出身者である。兄はJohnといい、Thomasは兄とともにEdward IIに接触しそのclerkになったという。兄は1310年から1318年までchamberlainの要職にあった。KpPSに登用されたのは、兄の力によるものかも知れない。また上記史料のBruge (Bruges, Bridgnorth) とはやはりco. Salop (Shropshire) にある。しかしさしあたり同定の確証がないので、断定を控えておいた。さらに*Handbook*は、彼のKpPSについて“jointly with the controllership of the wardrobe until 7 July 1318 and separately thereafter”としている。独立の官制としてKpPSが置かれるのは、すでに述べた通りRoger Northburgh (前出〔2〕) からであり、Thomasはその後任者である。1318年までcontrollerとしてKpPSを兼任したということは、両官職の分離がいまだに定着していないからか。

[29] BALDOCK (Baudak, Baudale), Robert: kc?-p-c-B

Kc?: “Reynolds (Walter) and Baldock (Robert), the most characteristic chancellors of the reign, had been clerks of the wardrobe of Edward of Carnarvon either as prince or king.” Tout, II, 214.

KpPs: 27 Jan. 1320.

Ch: 20 Aug. 1323.

[Bp: (archdeacon of Middlesex) el. 23 July 1325 Norwich. resigned 3 Sept. 1325, imprisoned 16 Nov. 1326.]

上記のToutの記述からすれば、Robertはkcであったとの推定もなりたつ。王太子のclerkとしても、また即位後のEdward IIのclerkとしてもkcの可能性はある。しかし手もとの史料からは確証がえられない。Robertよりも前に、Ralph Baldockという人物がいた。Ralphはarchdeacon of Middlesexを経てLondon司教(1304-13)になり、chancellor (Apr.-Aug. 1307)になった。Robertも1312年からarchdeacon of Middlesexで、しかもRalphの遺言執行人になっていることからその縁者と推定される⁴⁴⁾ またRobertは、KpPSに就任して半年後の1320年7月7日からcontroller of the wardrobeも兼任している。両官職の分離がいまだに定着せず、後任者Robert Wodehouseも両者を兼任した⁴⁵⁾ *DNB*によれば、Robert Baldockは1322年に国王からWinchester司教に推挙されたが、教皇はJohn Stratford (前出〔13〕)を同司教座に直任した。Norwichの司教人事も上記の通り不調に終わり、Edward II治世末期の政争の中で死亡した。

[30] WAKEFIELD (Wakefeld), Henry: kc?-w-B-t

44) Tout, II, 299.

45) Tout, VI, 28. 50.

Kc?: (a) 23 Jan. 1364 “Grant to the *kc* H. de Wakefeld of the prebend of Nunwyk in the collegiate church of Ripon ……” *CPR.*, 1361–64, p. 440. (b) “…… though up to 1364 a clerk of the earl of Hereford, rapidly became much more the king’s man ……” Tout, IV, 153.

KpW: 27 June 1369

Bp: (canon of St. Paul’s, London; archdeacon of Canterbury) prov. 12 Sep. 1375 Worcester (d. 11 Mar. 1395)

Tr: 14 Jan. 1377.

(b)で Tout がいうところからすれば, Henry は Hereford 伯 Henry Bohum の earl’s clerk から *kc* に転身したことになり, (a)の史料はまさにその年のものである⁴⁶⁾ しかしもの史料には, (a)を同定するための確証がない。また急速に国王への臣従の度合いを深めたとされるにしては, KpW に任命されるまでの官職なども不明である。Worcester 司教座へ直任される前に, 国王から Ely 司教座へ推挙されたこともあるという⁴⁷⁾ John Barnet が1373年に死亡して, Ely 司教座が空席になったときのことか。とすれば, 教皇は2年後に国王の意向をかなえたことになる。

[31] **RUSSELL, John**: *kc*? –p–B–B–c–c

Kc? (a) 21 Mar. 1469 “Appointment for life of Master J. R., doctor of decrees, as secondary in the office of the privy seal, receiving 40 *l.* yearly from the issues of the counties of London and Middlesex.” *CPR.*, 1467–77, p. 151. (b) 30 Oct. 1471 “Confirmation of estate which Master J. R., doctor of decrees, has as second in the office of the privy seal, and grant to him for life of 40 *l.* yearly from 21 March, 9 Edward IV (1469), from the issues of the counties of London and Middlesex ……” *Ibid.*, p. 280.

KpPS: (secondary of privy seal office 1469–74) 28 May 1474.

Bp: (archdeacon of Berkshire) prov. 15 July 1476 Rochester.

Bp: trs. prov. 8 Jan. 1472 (d. 30 Dec. 1494).

Ch: 10 May 1483; 27 June 1485.

この John は, 教令 (decrees) の博士つまり教会法学者である。(b)は, (a)から2年半ほど遅れ

46) 次の史料は, Henry が earl’s clerk であった時期のものである。同名の別人か。13 Feb. 1361 “Presentation of John de Tyngewyk, parson of the church of Longecombe, in the diocese of Lincoln, to the church of Sharnford, in the same diocese …… on an exchange of benefices with H. de W., *kc*.” *CPR.*, 1358–61, p. 540. 聖職禄交換の記録である。また次の史料は, Henry が KpW 在任中の時期に相当するもので, 先の史料にもまして別人の可能性は少ないが, やはり同定のための確証がない。19 Oct. 1370 “Grant to W. de Beverle, prebendary of the prebend of Stylyngton in the church of York, of the prebend of Houthe in the church of Dublin …… on an exchange of benefices with the *kc*, H. de W.” *CPR.*, 1367–70, p. 467. これもまた聖職禄交換の記録である。上記 (a) の史料の Ripon も York の教会であった。

47) Tout, IV, 154.

て(a)を再確認したものであるが、40 l. の終身年金のほかに、その所領についても確認されている。年金の財源が London および Middlesex から徴集されたものと書かれており、国王官僚への給与の方式の1例を示している。なお(b)では、その所領が privy seal の次官の職責によって保有されたものであると明記されている。これほどの高官でしかも国王から直接に給与を受けているのであるから、John は定義上では kc であるが、手もとの史料ではその確証がえられない。一応疑問を残しておこう。

[32] LANGHAM, Simon : t-B-c-A-Cd.

Tr: 23 Nov. 1360.

Bp: (abbot of Westminster) prov. 10 Jan. 1362 Ely.

Ch: 21 Feb. 1363.

Abp: trs. prov. 24 July 1366 Canterbury (res. 28 Nov. 1368).

Cd: 27 Sept. 1368 cardinal-priest by the title of St. Sixtus; July 1373 cardinal-bishop of Praeneste (Palestrina)

前歴について、kc の確証のみか形跡すら見あたらない。DNB によれば、Benedictus 派の修道士出身で、1349 年 4 月に Westminster 修道院の prior に就任し 5 月に abbot に昇格した。同修道院の運営の手腕を買われて treasurer に起用されたという。John Sheppey の後任として treasurer に就任した。前任者 John も同派の修道士であった。教皇 Urbanus V から St. Sixtus の cardinal-priest⁴⁸⁾ に任命され、Edward III の承認をえないでそれを受諾したことから、Canterbury 大司教を辞任し⁴⁹⁾ やがて教皇のもとへ去った⁵⁰⁾。

48) 枢機卿は、司教枢機卿 (cardinalis episcopus, cardinal-bishop), 司祭枢機卿 (cardinalis presbyter, cardinal-priest), 助祭枢機卿 (cardinalis diaconus, cardinal-deacon) とに分かれる。また教皇のもとに定住するか否かで聖庁付枢機卿 (c. curiae, c. in curia), 聖庁外枢機卿 (c. extra curiam) に分けられる。Simon は上記の通り、後に cardinal-bishop に昇任される。

49) Simon の辞任は上記の通り、1368 年 11 月 28 日であるが、国王はそれ以前に大司教座が空席 (voidance) になったと見なし、同月 16 日から 27 日までに、“by reason of the voidance of the archbishopric of Canterbury” として、CPR., 1367-70, に記録されているだけでも 6 件の king's gift を与えている (pp. 168, 169, 176 bis, 183, 184)。辞任の結果として空席になったのではなく、空席と認定された結果として辞任したとおもわれる。15 Jan. 1369 “Mandate to……escheator in the counties of Kent, Surrey, Sussex and Middlesex, to deliver the temporalities of the archbishopric of Canterbury in those counties to William (Wittlesey), late bishop of Worcester, whom the pope has preferred to that archbishopric in the place of Simon, the late archbishop, cardinal without the Roman court, whom the pope has released from his tie to that church and promoted to be cardinal priest……” Ibid., p. 187. いうまでもなく後任大司教へ temp. の引渡しを指示したものである。この中で Simon は、まず “cardinal without the Roman court” と書かれている。前注の cardinalis extra curiam であろう。また彼は、この文面では、教皇によって Canterbury 教会との関係を断たれたかの如く書かれている。枢機卿発令は上記の通り 9 月 27 日である。後任の William の転任発令は 10 月 11 日である。Simon の正式辞任は 11 月 28 日であった。後任の発令が比較的早いことからして、9 月 27 日より早い時点で、教皇自身が Simon を解任せざるをえないと判断していたのではないか。

50) DNB によれば、Simon は 1372 年に教皇 Gregorius XI によって使節に任命され、Edward III と France 国王 Charles V とを和解させるべく、両宮廷へ派遣されたという。しかし、実際にはそれ以前から使節に起用されていた。2 Id. (12) Jan. 1371 (Avignon) “……continuation of the mission of cardinals Simon [Langham] of St. Sixtus, and John of Sancti Quatuor Caronati, sent by

[33] KEMPE, John : p-B-B-B-A-C-Cd-C-A

KpPS : 3 Oct. 1418.

Bp : (archdeacon of Durham) el. a. June, prov. 21 June 1419 Rochester

Bp : trs. prov. 28 Feb. 1421 Chichester

Bp : trs. prov. 17 Nov. 1421 London

Abp : trs. prov. 20 July 1425 York

Ch : 16 Mar. 1426.

Cd : 18 Dec. 1439 cardinal-priest of Santa Balbina's.

Ch : 31 Jan. 1450.

Abp : trs. prov. 21 July 1452 Canterbury.

Lord Campbell は、John を “a very low condition of life” の両親から生まれたとしているが、*DNB* は父が Kent の gentleman であったという。前出の[4]John Stafford は、Kempe のまさに後輩と呼んでよい。1415 年に Kempe は Court of Arches の dean に任命される。これは Canterbury 大司教管区の教会法上の上訴裁判所で、尖塔の基部に arches があるところからその名で呼ばれた。また大司教 Henry Chichele の vicar-general (総代理) にも任命されている。Kempe が KpPS に任命されると、Arches には後任として Stafford が任命されている。Kempe の後任の KpPS も Stafford である。Kempe が 1432 年に chancellor 職を解かれると、後任にはやはり Stafford が任命されている。司教歴も Kempe が先行する。これら一連の人事はすべて大司教 Henry の存命中のことである。両者の初期の経歴からして、いずれも archbishop's clerk であったと推定される。*DNB* は、Henry V が Kempe を外交交渉に起用したというが、国王との接触は大司教の仲介によるものか。

1439 年 12 月 18 日に教皇 Eugenius IV によって presbyter cardinalis sanctae Romanae ecclesiae (cardinal-priest of the holy Roman church) に列せられ、翌年 1 月 8 日に Santa Balbina 教会の名義 (titulus, title) 上の司祭職を与えられる⁵¹⁾。その結果、枢機卿である John か

Urban V. to foster peace between the kings of France and England ……” *C. Papal Reg.*, vol. IV, p. 92. この John とは Jean de Beauvais で、Simon の同役である。両名は Urbanus V (d. 1370) の存命中からこの任務についていたことがわかる。“Simon, cardinal of St. Sixtus, papal nuncio” は、1373 年 5 月 13 日 (3 Id.) の史料が最後になっている (*Ibid.*, p. 124)。*DNB* はまた、William Whittlesey が 1374 年に死亡すると、Simon が Canterbury の聖堂参事会で後任に選挙されたという。しかし、宮廷の意向によって、翌年 Simon Sudbury が London から迎えられ、Langham は教皇のもとに留まり、1376 年 7 月 22 日に死亡する。

51) 14 Kal. Jan. (19 Dec.) 1439 “To John, archbishop of York, raised to be a cardinal priest of the holy Roman church. *Motu proprio* declaration to him — whom the pope has this day in consistory general raised and nominated and published a cardinal priest of the holy Roman church, and to whom the pope intends shortly to assign one of the cardinal priest churches of Rome as title — that the pope's intention was …… that he should not be released from the bond by which he was and is bound to his said church [of York], and that the pope's will neither was nor is that that church should be void …… that even after he (pope) has given his consent to the said raising and nomination and publication, and has

Canterbury 大司教である Henry か、いずれが上位にあるかという問題が生じ、教皇の裁定によって John の上位が決定する⁵²⁾

[34] **ROTHERHAM** (Rotheram or Scot), **Thomas**: p-B-p-B-c-c-A-c

KpPS: 24 June 1467.

Bp: (canon of Lincoln) prov. 11 Jan. 1468.

KpPS: 11 Apr. 1471 resumed office.

Bp: trs. prov. 8 Jan. 1472 Lincoln.

Ch: 27 May 1474; 29 Sept. 1475.

Abp: trs. prov. 7 July 1480 (d. 29 May 1500).

Ch: 18 Sept. 1485.

Thomas は、KpPS に就任してからなるほど kc である⁵³⁾ しかしそれ以前については kc の前歴が確認されない。DNB によれば、彼は1461年までに Lancaster 派の Oxford 伯 (John de Vere) の chaplain になった。いわば earl's chaplain である。伯に随行して宮廷に入り、後の王妃 Margaret に知られるが、queen's clerk になったか否かは不明である。1467 年に KpPS に任命されるが、それは王妃の力によるものという。1470 年 10 月 3 日に Henry VI が王位を回復し、10 月 24 日に John Hales が KpPS に任命された。しかし 1471 年 4 月 11 日に Henry がまたしても廃位され、Edward IV が王位を回復して、Thomas も KpPS の職を回復する。この王位回復の日をもって、Thomas の “resumed office” の日付としておいた。

2 種類以上の長官職経験者でしかも司教歴をもつものは、①の 4 名を含めて以上 34 名である。このうち、最初に長官に任命される前にすでに kc であったものは、25 名にのぼる。[1] [28] [29] [30] [31] の 5 名には kc 歴について疑問符を残しておいた。[4] [32] [33] [34] の 4 名には kc 歴の状況証拠すら見あたらない。その点でこの 4 名はむしろ異例であるが、異例とはいえ、いずれも官僚としては chancellor、聖職者としては大司教にまで昇進している。4 種類の長官職のうちで chancellor が最高位であることは、一般に知られているところであるが、そのことについては、いずれ筆者なりにも吟味する。ともあれ、この 4 名中、[32] Simon Langham,

received a church of Rome as a title, even being a cardinal and holding such church of Rome, he shall remain archbishop of York, and administer that see, etc. as before.” *C. Papal Reg.*, IX, 46. まず日付が問題である。“14 Kal. Jan.” とすれば 12 月 19 日であるが、脚注では “1439 die Sabbati 18 mensis Decembris” 付で昇任させたという。いずれにせよ、枢機卿会議 (consistorium) でとりあえず昇任を決定し、後日しかるべき cardinal-priest church の名義上の司祭職を与えること、またそれを与えられても York 大司教の地位を失わないことが教皇の意向として述べられている。DNB. によれば、cardinal 就任について John に懸念があったものの、国王にすすめられてこれを受諾し、しかも大司教座を引続き保障されたという。前出[32] Simon Langham のばあいには、上記の通り結局は Canterbury を去っている。

52) 裁定では、cardinal は “the first degree in the church next to the papacy” であるとされ、Henry は自分の管区内でも cardinal の下位に位置づけられたという (DNB)。

53) 29 Oct. 1467 “..... to Master T. Rotheram, kc, kp. of the privy seal, provost of the king's college of Whyngnam, in the diocese of Canterbury.” *CPR.*, 1467-77, p. 42.

[33]John Kempe が枢機卿にまで昇進したことも上記の通りであって、その点も異例である。kc 出身者では[25]Thomas Langley だけが枢機卿になった。しかし Thomas は、しかるべき教会の名義司祭にはならなかったので、枢機卿として完全な資格をもつにはいたらなかった⁵⁴⁾

54) Thomas は、Salisbury 司教 Robert Hallam と共に枢機卿に列せられているが、Robert と同じ理由で司祭名儀をもたなかったという。“titulum non obtinuit de more quia Roman nunquam venit” 教皇庁へ出仕することがないから、ということである (DNB)。